

[江別市] 施策達成度報告書

政策 04 安全で快適な都市生活の充実

施策 04 市街地整備の充実

主管課 都市計画課

施策の環境変化と課題

施策の環境変化 (21年度)	施策の課題 (21年度)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 拡散型の都市構造に歯止めをかけ、機能的な生活拠点をつくることが求められています。 ・ 少子高齢化の進展により、駅等を中心としたコンパクトな市街地の整備が求められています。 ・ 中心市街地の活性化などの都市の再生が求められています。 ・ 駅周辺における市街地整備やバリアフリー化は着実に進んでいます 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市基盤施設の維持管理コストなど都市経営コストの増大が課題となっています。 ・ 自動車に依存した都市構造から、歩いて暮らせる都市構造への移行が課題となっています。 ・ 市街地の低利用地、未利用地の都市的土地利用及び土地利用転換をするための誘導策が求められています。

施策の目的

機能的で魅力的な市街地やまち並みを形成し、市民が暮らしやすいまちづくりを目指します。

対象 (誰を対象とした指標か)

市街地

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

機能的で魅力的な街区やまち並みを形成する。

施策の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
機能的な「まち」と感じる市民割合	%	65.1	70.0			↗

施策の達成状況 (21年度)

機能的な「まち」と感じる市民割合は、駅のバリアフリー化の促進、憩いの場としての公園管理の充実に努めた結果や、鉄道高架事業が本格化していることもあり、ほぼ横ばいとなっていますが、今後は野幌駅周辺整備の進捗に伴い、成果の向上が見込まれます。

施策事業コスト	20年度決算額	21年度決算額	22年度当初予算
トータルコスト(千円)	1,118,913	1,165,672	1,109,013
事業費(千円)	729,011	787,280	725,925
人件費(千円)	389,902	378,392	383,088

01 江別の顔づくり

基本事業の目的

都心地区の整備・充実を図り、より快適な市民生活と経済活動の集積に努めます。

対象 (誰を対象とした指標か)

都心地区

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

市街地の整備充実を図り、快適な都心(中心市街地)を形成していく。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
野幌駅周辺の利便性・快適性に満足している市民割合	%	55.5	60.5			↗
鉄道高架後の南北交通量	台/日	31,898				40,000
中心市街地の店舗延べ床面積	m ²	102,858	102,654			105,000

基本事業の達成状況 (21年度)

構成事業となる「連続立体交差事業」、「土地区画整理事業」、「街路事業」の一部がそれぞれ事業に着手しておりますが、事業の初期段階であるため、成果指標は、ほぼ横ばいです。
今後、それぞれの事業の進捗に応じて成果指標の向上が見込まれます。

基本事業コスト	20年度決算額	21年度決算額	22年度当初予算
トータルコスト(千円)	0	658,986	626,119
事業費(千円)		526,218	492,871
人件費(千円)		132,768	133,248

02 計画的な土地利用の推進

基本事業の目的

計画的な市街地整備を進めるとともに活性化を誘導し、市街地の土地利用を向上させます。

対象 (誰を対象とした指標か)

市街地

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

- ・市街地の土地利用率が上がる。
- ・市街地外縁部の利点を活かした土地利用を図る。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
土地の有効利用率	%	72.0				75.1
市街地での新規着工戸数 【初期値(H19) 前期4年間 1,444戸(累計)】	戸(累計)	-	138			1,110以上

基本事業の達成状況 (21年度)

土地利用の推進については、「市街地での新規着工戸数」が後期目標値の約12%にとどまっているものの、ゆっくりではあるが土地利用が進んでいると推察されます。

基本事業コスト	20年度決算額	21年度決算額	22年度当初予算
トータルコスト(千円)	0	83,190	51,238
事業費(千円)		28,838	5,018
人件費(千円)		54,352	46,220

03 安全で憩える公園の整備

基本事業の目的

市民との協働により公園再整備を進め、さらに市民管理の公園を増やします。また、安全で憩える公園を増加させます。

対象 (誰を対象とした指標か)

公園、地域住民

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

市民と行政の協働により、安全で憩える公園を増加、リニューアル、運営する。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
憩いの場としての公園満足度	%	71.7	74.2			↗
市民と協働で管理している公園数	箇所	68	70			80

基本事業の達成状況 (21年度)

公園満足度については、7割を超えている状況ですが、今後とも市民との協働による公園再整備や公園管理を推進していくことで、より一層の満足度の向上に努めます

基本事業コスト	20年度決算額	21年度決算額	22年度当初予算
トータルコスト(千円)	0	215,938	211,012
事業費(千円)		205,980	201,019
人件費(千円)		9,958	9,993

04 人にやさしくわかりやすい街並みづくり

基本事業の目的

美しい都市景観づくりや施設のバリアフリー化を進め、人にやさしい施設、わかりやすく景観に配慮した街並みをつくります。また、駅及び駅周辺、特別特定建築物などの関連整備を図り、利便性の高い機能的なまちをつくります。

対象 (誰を対象とした指標か)

市街地、駅及び駅周辺の建物等

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

人にやさしい施設、わかりやすく機能的かつ景観に配慮した街並みになる。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
まち並みがわかりやすいと感じる市民割合	%	66.3	69.2			↗
駅及び駅周辺においてバリアフリー等利便性の向上が進んでいると感じる市民割合	%	84.0	89.5			↗

基本事業の達成状況 (21年度)

高砂駅のバリアフリー化工事が行われ、駅のバリアフリー化が進んでおり、結果として「駅及び駅周辺においてバリアフリー等利便性の向上が進んでいると感じる市民割合」が上昇しております。

基本事業コスト	20年度決算額	21年度決算額	22年度当初予算
トータルコスト(千円)	0	15,234	15,055
事業費(千円)		6,935	3,812
人件費(千円)		8,299	11,243